

各層の霊獣の装飾には、それぞれ願いが込められている。

第一階層に「龍」 大地震や台風等の自然災害が起きないように願っている龍

第二階層に「麒麟」 麒麟は一角霊獣で角は肉に巻かれていて誰をも傷つけない。
世の中が良くなると麒麟が現れることから良い政治を願っている麒麟。

第三階層に「獏」 鉄や銅を食べる獏は、平和な世の中でしか生きられない生き物で戦争により鉄や銅が武器に使われてしまっては生きられない。恒久の平和を願っている。



龍（一層）



麒麟（二層）



獏（三層）

仁王門

琴棋書画（比較）

三重塔



琴



琴（北）



囲碁



囲碁（西）



書道



孟母三遷（南）



絵画



琴高仙人（東）

日光東照宮の陽明門 琴棋書画



談山神社 (たんざんじんじゃ) には木造の十三重塔が現存している。(奈良県桜井市)



三重塔内の五智如来 (sausalito さんのブログより)



素晴らしい各層の板垂木

羽目板の十六羅漢



南側



東側



北側



西側



彫物師

無関圓鉄（嶋村家二代目島村圓鉄）

相 輪



相輪は通常七つの部分から成っています。

- 宝珠(ほうしゅ) 釈迦さまの遺骨を納めるところ。
- 竜車(りゅうしゃ) 高貴な人をのせる乗り物を表します。
- 水煙(すいえん) 火炎の透し彫のデザインですが、火をきらうことから水煙と呼ばれます。
- 宝輪(ほうりん) 九つの輪。五大如来と四大菩薩を表します。
- 請花(うけばな) 前記までのものを受ける飾りの台。
- 伏鉢(ふせばち) お墓の原形、土まんじゅうの部分。
- 露盤(ろばん) 伏鉢の土台。

中央を貫く心棒の部分は、刹管さつかんまたは擦さつといいます。

相輪にはバリエーションがあり、宝輪が 8 個のもの、宝珠・水煙が他のものに置き換えられたものなどもあります。

五智如来 阿弥陀如来 ↑ 不空成就如来 大日如来 宝生如来 ↓ 阿閃如来
四大菩薩 胎蔵界の大日如来の四方位に位置する菩薩。

普賢菩薩(南東) 文殊菩薩(南西) 観自在菩薩(北西) 弥勒菩薩(北東)
上行菩薩、無辺菩薩、浄行菩薩、安立行菩薩の場合もあります。

両界曼荼羅(りょうかいまんだら) は、日本密教の中心となる仏である
大日如来の説く真理や悟りの境地を、視覚的に表現した曼荼羅である。

三重塔 重要文化財 説明文

正徳 2 年(1712) に建立され、宝暦 7 年(1757)、享和元年(1801)、安政 5 年(1858) に大修理が行なわれています。又昭和 58 年現在の姿に復元されました。

塔の初層内陣には金剛界大日如来の「五つの智慧」をあらわす五智如来(大日如来・阿閃如来・宝生如来・阿弥陀如来・不空成就如来)が安置されています。

塔の高さは相輪頂上まで約 25 メートルで初重の柱、長押、台輪等に地紋彫りを、各重の尾垂木の先端部は竜の丸彫で飾り、脇間板壁には十六羅漢の彫刻をめぐらしています。また板軒には雲文を浮彫りにして極彩色を施すなど、江戸時代中期の極めて華麗な塔であります。

昭和 56 年から 58 年にわたり漆塗・彩色工事を主体とした保存修理工事を行いました。この工事は享和 3 年(1803)の古文書に書き留められていた漆塗、彩色の仕様をもとに復元されました。

私の調査研究(詳しくは成田山研究室を参照下さい)

(説明文では「各重の尾垂木の先端部は竜の丸彫で飾り」との記述があるが、

三層目の尾垂木の先端部は龍でなく漢である)

即ち一層目は全て龍、三層目は全て漢、二層目のみ尾垂木は龍でその他は麒麟である。